

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「教えられやすい器」

山形第一聖書バプテスト教会牧師 **鳥居完次**

「教えられやすい器になりなさい」…… 神学生当時、ある先生から何度か聞かされたことばです。2年前から聖書宣教会の評議員としての立場が与えられ、急に宣教会に出入りする機会が多くなりました。早いもので、聖書神学舎を卒業して33年が経ちました。それは私にとっては同時に牧師生活33年ということですが、今一度冒頭のことばをかみしめているこのごろです。

1. 神ご自身から教えられやすい器

「主よ。あなたの道を私に知らせ、あなたの小道を私に教えてください。」(詩篇 25:4) とダビデは言いました。しかし、本来的なことをいえば、実はむしろ主ご自身の方が「教えたい」「教えてあげたい」と願っておられることがわかります。その切なる思い、語りかけの声に耳を閉ざし、背を向けていた私たち罪人のために、神ご自身の方から心を開き救い主を送ってくださったことを今更ながら確認させられます。そのことをただただ「恵み」として受け取るときに、主はますますその「奥義」を教えよう(教えたい)と、てぐすね引いて待っておられることがわかるのです。「主は、いつくしみ深く、正しくあられる。それゆえ、罪人に道を教えられる。主は貧しい者を公義に導き、貧しい者にご自身の道を教えられる。」(詩篇 25:8~9) とある通りです。

2. 人から教えられやすい器

この世には、実にいろいろな職業、生い立ち、生活環境、性格などを持った人たちがいます。もちろん、教会も例外ではありません。正直なところ、これまでの教会生活の中で「この人が教会にいなければ、どれだけ楽か」と、ふっと思わされたことが何度かありました。しかし、

現実はそのような簡単なものでないことがわかります。むしろ、様々な人がいることによって主の教会としての意味があるのだと教えられます。言い方を替えれば、そこに主ご自身の主権が働いておられるということなのでしょう。「神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とお定めになりました。これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。」(使徒 17:26~27)



3. すべての出来事から教えられやすい器

私たちを取り巻く世界は日々変化しています。さらには、様々な事件、出来事が起こります。私たちが主にあって霊的アンテナを高くかけるときに、確かに今日は、主の再臨に向かって一步一步終わりの時代を突き進んでいることを覚えさせられます。もちろん、そのすべてに霊的な意味と説明をつけることもその必要ありません。しかし、この世に今尚影響を与えることを許されているサタンに対抗して歩めるように、主はみことばを用意してくださっておられます。そのみことばのフィルターを通して、この世の動きをしっかりと見据えていきたいと思えます。「地には天がぎっしりと詰まっている。ごくふつうの茂みのどれにも神が燃えている。だが、それが見える者だけが靴を脱ぐ。残りはただそのへんに座って、ブラックベリーを摘んでいるのだ。」エリザベス・バレット・ブラウニング

夏期研修講座参加者の声

聖書神学舎 46 期卒 原 敏夫

「絶対にイヤだ、行きたくない。」
「お願いだから行って。」
「どうして？」
「そのメッセージを何とかして。」
「・・・。」

あの辛かった授業を二度と受けたくない。先生方の顔も見たくない。卒業生とも会いたくない。けれども、家内にこう言われては返す言葉もありません。

今年も、7月7日から9日まで、45名が集い、夏期研修講座が奥多摩福音の家において開催されました。今年は聖書から「説教」に関して学びました。講義は、赤坂先生の開会礼拝に続き、津村先生のエレミヤ書、内田先生の使徒の働き、松本先生の民数記、鞭木先生のIコリントでした。

確かに講座の前の数ヶ月間、私はいろいろの面で大揺れに揺れていました。あの人はこう言い、この人は違うことを言う。しかし、講義の中でみことばの忠実な解き明かしを通し、私が安心できる場所、目指すべきところを再確認させていただきました。また、先生方はあの当時と変わりなく謙遜で、卒業生の皆さんには教えをいただくとともに刺激を受けました。

驚いたのは、卒業7年目のI先生が、ヘブル語の本文もパースも、コンピュータを使わず、全部手書きでされていることでした。「どうしてですか」と愚かにも聞いてしまったら、「ヘブル語の先生が卒業しても10年間は続けなさい、と言われたじゃない。でも、頭の中でまだ日本語に変換しているんだよね。」ここまで原語にこだわるのか…。

こういう訳で、私の懸念を大きく裏切り、行って良かった、また来年もこなくちゃ、と思いました。帰ってから家内に「ねー、来年は一緒に行こうよ。良かったよ」と言う。「やだ、ゼッタイに行かない。」あまりの勢いに、理由はひと月経った今でも聞けません。

教会音楽夏期講習会を終えて

飯島 千雍子

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

II テモテ 4章2節

主の聖名を心から賛美申し上げます。

教会音楽科のために、お祈りとご支援をありがとうございます。主のあわれみと恵みのうちに守られ、導かれていることを覚えて心から主に感謝いたします。

第25回教会音楽夏期講習会を感謝します。21教会から約30名の兄弟姉妹が集まり、ともに学びあう祝福された3日間でした。開会礼拝(教会音楽の理念、岳藤照子師)、講義(1:詩篇16篇、松本任弘師、2:聖霊なる神、内田和彦師、3:礼拝、鞭木由行師)、閉会礼拝(教会における「ことば」~徳を高めるために~、赤坂泉師)では、みな、「主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた」マリヤのように、真剣に、期待し、みことばに集中しました。演習や分科会では、みことばの土台に立った教会音楽のさまざまな実践の課題について、個人・グループ指導により学びました。互いの教会について紹介し、祈りあう主にある交わりも生まれます。いつも不思議に思うことですが、最終日に参加者の感想やおあかしをお聞きするとき、主のご臨在を覚えさせられ、主の御業であると確信させられています。

教会音楽科は、研修生がいない数年が続いています。「主よ、もう終わったのでしょうか」と問う声もあります。「あなたがたの信仰はどこにあるのです」と弟子たちに問われた主のことばが迫ってきます。これまで教会音楽科で学んだ方たちは主の召命に信仰によって応答した方々です。「時が良くても悪くても」主と主の教会に仕える働き人の学びと訓練の場として続いて用いていただけますようお祈りください。

..... 2009 年度夏期伝道実習から

主の御名を賛美します。

キャラバン伝道を祈りに覚えてくださった皆様、本年度のキャラバン伝道実習も背後の祈りにあって守られ無事に行えました。ご支援を感謝します。

私たち2009年度キャラバンは、総勢13名（内訳 2年生9名、1年生4名）を北海道、千葉、京都と3チームに編成して各教会に向かいました。「主の教会に仕える姿勢で、キャラバンとして一致して奉仕したい」と臨んだ本年度でした。結果、各チーム、個々人が主に様々に取り扱われ、とても良い実習の時となったことでした。これも研修中で未熟である私たちに、大切な宣教の現場を分かち合ってくださいました教会のご厚意があったからと感じています。本当に有難うございました。

キャラバン委員長 加藤 秀典

太平チャペルキリスト教会（北海道）

日程：7月4日～14日

伊東勝哉、若林正一、老松望、浅野正己

今回最も教えられたことは一人ひとりに届く宣教という視点でした。

イエス様が一匹の羊に命をささげて救い出されるお方であるように、キリストのしもべである私たちも一人ひとりの魂を大切にしたい働きを心がける必要を覚えさせられました。キャラバンを通して、改めて一人の魂を導くことの難しさを思わされましたが、一方で一人の人が主に導かれることの喜びと素晴らしさを実感しました。私たちはつい、実績主義、成果主義に走りがちになりますが、主が求めておられることはそうではなく、一人ひとりの魂に福音が届く宣教がなされていくことであることを思わされます。



主が求めておられることは、自分の力に頼るのではなく、宣教の主の栄光が現わされること

のみに期待し祈り求め、私たちは与えられた務めに応じて、忠実にキリストのからだの器官としての働きを全うすることであると思います。

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」（伊東）

向島福音自由教会（京都）

日程：7月7日～14日

児玉武志、和田孝之、濱川昌彦、加藤秀典、矢吹 祈



私たちのチームは京都の向島福音自由教会へ派遣されました。礼拝での奉仕、日曜午後の子供お楽しみ会、祈祷会や英会話クラスでの奉仕、トラクト配布、訪問伝道、西成めぐみ教会訪問など、様々な働きに携わらせていただきました。教会の普段の一週間を過ごさせていただき感謝しています。全てが順調に進んでいるのではなく、地域特有の課題があり、教会には多くの祈祷課題があります。しかし、教会にはいつも祈

りが積み重ねられていたことを実感しました。また、教会のために、奉仕をし、労している多くの方々の姿がありました。そこには豊かな主の交わりがありました。そこに加えさせていただき感謝しています。さらに様々な奉仕、訪問、また多く子どもたちが来てくれた子供お楽しみ会を通して、「この町には主の民がいる」という希望を見させていただきました。多くの恵みを主に感謝しています。(児玉)

恵泉キリスト教会・関宿チャペル (千葉)

日程：7月26日～8月2日

ブラッシュリチャード、佐藤陽一、石井陵太、畑田祐二

恵泉キリスト教会・関宿チャペルに遣わされた「チパチーム」のキャラバン伝道実習は、メンバーにとって新しい体験の多い一週間となりました。礼拝、奉仕と交わりを通して、私たちそれぞれの母教会とまた違う礼拝のささげ方、伝道の取り組み、その地域においての特別なチャレンジを味わいました。

トラクト配布の奉仕によって、地域伝道の難しさと必要を思わされました。子供の多い、賑

やかな礼拝に参加させていただき、礼拝の様々な可能性について探求していく必要に目が開かれたことを、メンバーは感謝しています。一つ一つの物事に対する聖書的理解の大切さを思われ、今後の学びを通して、この経験を生かしていきたいと願っています。

小学生キャンプでは、カウンセリングを見せていただき、幼いたましいに宿る苦悩と、明確な罪の自覚に、人間の原罪と救いの必要に改めて心を動かされました。

関宿の方々の暖かい歓迎とおもてなしも、神に感謝しています。(ブラッシュ)



近況と祈りの課題

- お祈りいただき、主に支えられて、今夏の補修改修工事が完了しました。羽村移転から20年の間用いられてきた建物と設備を補修、更新して、次の一区切りの主の用に備えることができたことを感謝しています。このような実務的なことも含めてすべての面で主の栄光のために自らを用いる学舎であるように引き続きお祈りください。
- 夏の間も、祈りとともに献げてくださる多くの主の民から励ましをいただき、感謝しています。同時に、献金の状況の変化にこんにちの経済的なたかひの厳しさを感じつつ、皆様の上に主の備えと祝福が豊かでありますようお祈りします。
- 学期が再開しています。卒業予定者の7名をはじめ、研修生の一人ひとりが良く主に聴き、学びと訓練において主に従う歩みを重ねて行けますように。
- 聖書神学舎で長らく教鞭を執ってくださったヘンリー・綾部先生が、7月18日に84歳で地上の生涯を終えて、主のみもとに召されました。先生を通してなされた主のわざを覚えて御名をあげ、遺されたロレイン夫人のために主の慰めをお祈りください。
- 教職員と関係者の霊肉の健康を主が守ってください、ただ主のために働くことができますように。

図書館だより

図書館長 津村 俊夫

この度、図書室の拡充に伴い、ゲストルームも2室(最大4名宿泊可能)になりました。牧師・伝道者の方々に、年に一度は、みことばと祈りに集中する時を自然の豊かな羽村で持っていただければと思います。近くには多摩川があり、少し足をのばせば、日帰りで奥多摩の山々を散策することも出来ます。忙し過ぎて立ち止まる暇のない先生方が、そのような時を持つことができるように、教会の皆様が祈り励まして送り出してくださいれば感謝です。学期中であれば、教師たちに会うことが出来ますし、食事を研修生と一緒にして、費用も少なくすみますので、是非、ご利用をお勧めいたします。

この原稿を書いている現在、私はケンブリッジのティンデル聖書学研究所にいます。イスラエルの学会に28年ぶりに参加した帰りに、一週間ほどリサーチのために立ち寄りました。この研究所には、博士論文のために集中的に学んでいる人、研究休暇をいただいて本の執筆や説教準備に励んでいる人、しばし忙しい教会の現場から解放されて読書と祈りに集中する人たちがいます。聖書学に関する情報を集め、使いやすい方法でそれらを提供していますので、時間と費用をかけて各国から人々が集まってくるのです。65年前に数人の聖書学者に重荷が与えられ、教会の祈りの中で始められたこの研究所が、現在、世界有数の聖書学の研究図書館として尊い働きをしていることは素晴らしい神のみわざです。

聖書宣教会の図書館が、研修生にとっても、すでに教会伝道の働きに携わっている方々にとっても、研鑽と憩いの場となるようにと願っています。このような目的をご理解くださって、これからも具体的な祈りとご支援をいただければ感謝です。

「オープンデイ」のお知らせ

11月7日(土)

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。申込は不要です。見学などの機会としては是非お用いください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

	I ~ II 8:20~10:00	10:05~10:35	III ~ IV 10:50~12:30
1年	組織神学II(神論) (鞭木由行)	チャペル (赤坂 泉)	旧約通論 (久利英二)
2年	旧約研究I(五書・歴史書) (津村俊夫)		旧約原典講読 (松本任弘)
3年	宣教学II(異教・異端) (赤坂 泉)		聖書解釈学 (津村俊夫)
4年	新約研究II(使徒の働き) (久利英二)		教理史 (鞭木由行)

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

詳しくは、聖書宣教会のウェブサイト <http://www.bibleseminary.jp/> の「行事や予定など」-「行事のご案内」をご覧ください。

編集後記

あらゆることにおいて、徹底して主をおそれる歩みを、と旧約の通読箇所から繰り返して心に迫りを覚えるこの頃です。御声を聞く幸いを感謝して、主に近く歩ま

「賛美礼拝」のお知らせ

11月28日(土) 14:30

共に主の御名を賛美し、主を礼拝する時としてどなたもご参加いただけます。今年はイザヤの偉大な確信のみことば「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われる」をテーマに、救いの根源を覚えます。ご多忙な中とは思いますが、是非ご参加くださいますように、ご案内申し上げます。

テーマ：信頼による静けさ…救いと力

「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る。」

イザヤ書 30章15節

曲目：わが心、主をほめよ(詩篇103篇 ハインリヒ・シュッツ)、主のことばのみが(ヨハン・ワルター)、愚め主なる主を歌をもてたえよ(グンベルツハイマー)、恵み深き主なる神よ(詩篇107篇 遠藤芳子 岳藤繁希)、イザヤ書30章(新作予定)ほか

させていただきたく願いを新たにしています。

皆さまにも、主のみことばが親しく、力強く響く日々でありますように。(A)